

トピックス

1. ホワイト企業への道(3)

2. 万物燃え盛る～壮月の頃～



福留経営労務管理事務所
姫路龍馬会
社会保険労務士・行政書士
福留章

龍馬通信

No. 8

2018年8月号

万物燃え盛る～壮月の頃～



今年の夏は異常に暑い。チベット南気圧と太平洋高気圧が日本列島に覆いかぶさるように居すわっている。記録更新が続く最高気温と連続する熱帯夜の記録。日本全体が燃え盛る炎の色に染まっている。死に至る暑さの夏と言ってTVでも注意喚起の番組ばかり。私の経験でもこれほどの暑さは初めてである。地震、大雨、洪水があつて、そしてこの暑さ。災害列島に大自然は容赦なく攻撃の手を休めない。

8月の別名は旧暦では秋となるためピタリとくる和名がない。かろうじて現代にも通用しそうなのが「草津月」と「壮月」。暑さの中、草も木も生い茂るように生命力を最大級に発揮する。「壮」には活力に満ち溢れている、勇ましいなどの意味がある。気力だけは充実させて厳しい暑さの毎日をポジティブに過ごしたいものです。

夏の花の代表はハイビスカス。品種改良によって色や形も様々であるが、いずれにしてもハイビスカスは赤が似合う。南国美人の真っ黒な髪に一輪の大きな赤いハイビスカス。最高の取り合わせだ。酷暑の夏、皆様には熱中症に注意して元気にお過ごしください。

随筆 『龍馬と私』～海軍操練所（神戸） 亀山社中・海援隊（長崎）～

海援隊の前身は亀山社中であり、さらに亀山社中は神戸に開かれた海軍操練所の残党の結社ということになる。海軍操練所はもともと勝海舟が將軍に直訴してできた、いわば海舟の個人的経営によるものであり、幕府要人からは当初から睨まれていた。いずれにせよ長続きはしない運命にあった。塾生の中に尊攘派の浪士たちが出入りしていたことから閉鎖に追い込まれた。行き場を失った龍馬は薩摩藩の西郷隆盛らの手引きで薩摩に亡命した。操練所の存在した2年間はしかし洋式航海術の習得と言う面でも異彩を放ち、雄藩からも注目されていた。龍馬は一人薩摩連合の為に動き、残りの者は長崎で亀山社中を立ち上げる。社中とはざっくりと言えば今の株式会社のようなもので、龍馬の不思議はこの株主からの資金調達に抜群の力を発揮したことである。土佐を脱藩した一浪人に越前福井藩の松平春嶽は多額の金を融通している。長州藩、薩摩藩のちには土佐商会を通じて土佐藩。そして長崎の小曾根、下関の伊藤など貿易商からも投資を受けている。亀山社中の最大の仕事は幕府の監視の目をかいくぐり、長州藩の為に薩摩藩の名義を借りて軍艦、武器の購入に成功したことであり、これが薩長同盟を大きく前進させることになる。薩長同盟成立後は諸事情から経営困難に陥る。その危機を救ったのが土佐藩の出張所である土佐商会。後藤象二郎配下の岩崎弥太郎がその責任者として抜擢されていた。このつながりから龍馬らの脱藩の罪は許され、土佐藩から隊長に任命され、亀山社中を再結成して海援隊を発足させた。慶応3年（1867年）4月のことである。海援隊約規第一条にはこう記されている。「およそかつて本藩を脱する者および他藩を脱する者、海外の志ある者、この隊に入る。運輸、射利、開拓、投機、本藩の応援



をなすをもって主とする。」神戸の海軍操練所、長崎の亀山社中、海援隊。歴史の流れの中で、龍馬らの現状を打破し、革命的発想をもって時代の扉を押し開くという進取の精神が貫かれている。海援隊が存在したのはわずか一年程。龍馬の不思議はこの海援隊が後世、日本海軍の魁として燦然とした輝きを見せた事実である。龍馬は海援隊を一つの学びの場として考えていた節がある。維新後、最も優れた外務大臣と言われた陸奥宗光をはじめ多くの人材を輩出している。公平平等で貫徹されたその精神は、一結社であった海援隊で生まれ、明治維新以降の精神的支柱となった事実を私たちは認めざるを得ないと思う。桂浜の龍馬像、太平洋の彼方を見つめ続ける龍馬の夢は「世界の海援隊」を作ることであった。



ホワイト企業への道 (3) ～熱中症に気をつけて～



「死に至る危険性を含む暑さ」気象庁は今年の熱波を「災害」と認定した。熱中症による救急搬送者数は今年の4月から7月22日現在の速報値で43,813人。昨年との比較で1.7倍近くになっている。8月も「暑い夏」が予想されており、さらに搬送者数がうなぎのぼりの状態になる事が懸念される。工場や作業場での熱中症は全体の約30%。症状も比較的軽症のものが多い。社内に緊急避難所を設け、常時クーラーを稼働させていざという時に備える。発症者が意識がある状態の場合は避難所で足を少し高い姿勢で寝かせ、水分・塩分を摂らせて安静にしていれば1時間程度で快復することが多い。意識のない場合はただちに119番をして救急搬送を依頼。楽な姿勢をとらせて待機する。

熱中症でも場合によっては死に至ることもあり後遺症が残る場合もある。現場ではお互い見守りをし、熱中症にかからぬ様、かかった場合には適切な対応をして大事に至らぬよう気を付けてください。



観ました！『モーツァルト！』

補助者： 江平真依

ミュージカル「モーツァルト！」の再演が決まったとき、「この公演は観に行きたい！」そう思っていました。ですが、“2018年最もチケットが手に入らないミュージカル”と言われているだけあって、なかなかチケットが手に入りませんでした。

いよいよ当日。いつもより少し早めの5時半に目覚まし時計をセットして就寝しましたが、それよりも前に起きてしまいました。普段は動きやすい服にスニーカー、リュック、髪も一つ結びというのが私のスタイルですが、今日だけは久々にクリーニングのかかったワンピースにヒールを履いて、髪もアップにして、よそ行きのバックでお出かけです。こんなにもTPOを気にして服を決めたのはいつぶりだったのか…。(笑)

梅田芸術劇場には開場の10分ほど前に着きました。赤いじゅうたんにホールの匂い。「いよいよだなあ。」と期待が高まりました。ロビーで一冊2200円のパンフレットを購入、(普段は500円の雑誌を買うにも躊躇します。)自分の席番の座席に着き、パンフレットに目を通す。そのうちに5分前のベルが鳴り、劇場が暗転していよいよ開演。神童と呼ばれた子どもの頃から始まり、ウォルフガングの成年時代の苦悩の日々、最期まで…。舞台上はその当時の様子が見事に演じられていて、みるみるうちに引き込まれていきました。生の歌声、オーケストラの演奏は非日常的で、開演からカーテンコールまでの約3時間は本当に夢のような時間でした。最後は約1800人余りの人たちがスタンディングオベーション。拍手と歓声で客席の盛り上がりは最高潮でした。



夏季休業のお知らせ 8月11日(土)～8月15日(水)です。